

キャンパスで感覚を磨く

グローバルパーソンとして不可欠な「語学力を高める」場から、専門分野について「グローバルな視点で理解を深める」授業、自分の能力を測り「成長の歩みをサポート」するプログラム、そして「留学生とふれあう」施設や機会まで、中央大学では、学内でスキルアップをサポートする制度が整えられています。

語学力を鍛える

中央大学 GLOBAL 語学力

夏季・春季休暇を利用した「短期集中英語講座」のほか、TOEICのスコアアップを目指す課外講座、AV機器やパソコンを使って学べるメディアラボなどのプログラムや設備を用意して、学生の語学力向上をサポートします。

- 短期集中英語講座
- 英語課外講座
- 短期集中 第二外国語講座
- TOEIC公開テスト
- 映像言語メディアラボ（多摩キャンパス2号館1階）
マルチメディア設備が整えられた教室。英語やドイツ語、フランス語、中国語等の特設講座が開かれています。

授業の中で基礎力アップ

中央大学 GLOBAL 専門知識

英語をはじめとした外国語で専門分野を学ぶ授業のほか、語学授業の一環として海外で語学研修を受けたり、広く世界で活躍するための知識やスキルと資質を育むプログラムを、各学部で展開しています。

- 外国語で学ぶ専門科目
- 英語で学ぶ日本法
- グローバルスチューデント(GS)育成講座
(商学部生のみ)
- グローバルリーダーズプログラム(GPL)
(総合政策学部生以外)

C-compassを活用する

中央大学 GLOBAL C-compass

C-compassは、本学が独自に設定したコンピテンシー（行動特性）をベースに、学生生活の目標や活動計画の設定、活動の記録、自己評価を半年ごとに繰り返し行えるセルフマネジメント・サポートシステムです。学生生活でのPDCAサイクル（目標を定め、挑戦し、振り返って次の目標に活かす行動サイクル）をサポートします。



異文化交流の場に参加する

中央大学 GLOBAL 施設

異文化交流の拠点G²や、留学の総合窓口である国際センターでは多彩なイベントや説明会を開催。留学生と交流しながら他国や日本の文化について理解を深めたり、語学を学べる機会などを提供しています。

- G²(G Square)⇒P.9
 - Language Lab(ランラボ)
 - Culture Week
- 国際センター⇒P.9
 - インターナショナル・ウィーク
 - 平和セミナー



Fumino Higuchi
樋口 史乃さん 商学部
金融学科4年

私が活用した講座と授業

◆留学準備教育「グローバル・スチューデント育成(GS)講座」

第二外国語の運用能力と異文化コミュニケーション能力を高めることを目的とした商学部独自の講座で、私の場合は中国語でした。このGS講座を受講したことで短期留学の資格を得られ、1年次の秋学期に上海の復旦大学へ留学。2年次の長期留学の準備に大変役立ちました。

◆短期集中英語講座

1週間強の短い期間に行うTOEICのテスト対策講座で、私は3年次の春学期に受講しました。ほかにもTOEFLの講座やプレゼンテーションのスキルを学ぶプログラムもあります。

◆TOEICリスニング/リーディング(現在)

商学部の先生が指導して下さいます。就活の際に英語力の必要性を感じ、改めて勉強しています。

Taking the first GLOBAL steps [グローバル はじめの一歩]

「私自身、高校生の時には長期留学をすとは思っていませんでした。でも一見敷居が高いと感じがちな取り組みに対して、中央大学は一步踏み出した人をサポートする体制や制度が充実しています。『GLOBAL』の概念に縛られることなく、自分の望むことに素直に行動してみてください」

Takaya Kunihiro
国広 貴弥さん 法学部
国際企業関係法学科4年

私が活用した講座と授業

◆外国語で学ぶ専門科目

現在、全て英語で行われる「Law and Society」と「外書講読」の授業を受講しています。語学に関しては短期に成果が出るものではないと考えていますが、簡単な英語でも良いから「自分から、自分の言葉」で意見を発信していこう、という姿勢が身につけてきたように実感しています。

◆Language Lab(通称:ランラボ)

時々参加し、英語・独語の日常会話にふれています。このおかげで以前よりも留学生との交流を楽しむことができています。

◆やる気応援奨学金を受給⇒シンガポールへ

公務員になり、国際色豊かな仕事をしたいと思っていましたが、この渡航をきっかけに、よりグローバルに働ける可能性を秘めた民間企業を選択しようと考えてようになりました。

Taking the first GLOBAL steps [グローバル はじめの一歩]

「英語を話せない自分が、これほどまで海外と関わって生きていくことになるとは想像もしていませんでした。正直なところ『グローバル』という言葉が独り歩きしているように思います。もっと単純に考えましょう。多様なものを知れば楽しいし、それが『日本・日本人』について考えるきっかけにもなります」

